

1 水稻生育状況（8月1日現在 普及センター調査ほ）

●生育状況調査（中苗：ななつぼし）

区分	草丈 (cm)	葉数 (葉)	茎数 (本/㎡)	平年との 遅速日数	備考 ※ ()は平年比
R6年	87.7	10.6	564	+6	出穂期7/23 (+6) 出穂揃7/26 (+6)
平年値	89.9	10.8	532		
差	-2.2	-0.2	+32		

(1) 生育状況について

生育の遅速は、平年より早く推移しています。

(2) 土壌水分の確保

開花後、登熟初期（開花～20日間）は、籾の中で子房が急速に大きくなるため、水分が必要です。ほ場にひび割れ（＝断根）が発生しないよう、土壌水分を確保するため浅水管理・間断かんがいを行いましょう。

なお、登熟初中期に高温（最高29℃、最低23℃以上）が5日以上続くと予想された場合は、かんがい水の掛け流しを行い、水田地温を下げて乳白・腹白粒などの発生を防ぎましよう。但し小雨が続く場合は掛け流しは行わず湛水状態を維持ましよう。

(3) 病虫害防除対応

計画的に基幹防除を実施するとともに、病虫害発生状況を確認し、必要に応じて追加防除を検討・実施ましよう。

(4) 落水時期と落水後の水管理

落水の目安は「穂かがみ期（出穂25日後頃）」以降。水田が乾燥する場合は走り水を行い、土壌水分の確保に努めましよう。

2 主要野菜の生育状況

作物名	生育状況	技術対策
トマト	3月定植：7～8段目収穫 4月定植：7段目収穫 5月定植：3～4段目収穫 6月定植：1～2段目収穫。 <病虫害・障害> ・灰色かび病、うどんこ病、すすかび病、アザミウマ類、黄変果の発生が見られる。	・ベット内側の葉や老化葉を中心に摘葉を行い風通しを良くする。 ・遮光資材の利用、ハウスの開閉、換気、リーフカバーで、黄変果の発生を防ぐ。 ・適切な土壌水分確保や肥培管理に努める。 ・ハウス内外の雑草を除去する。 ・病虫害は定期的に防除を行う。
ハウス軟白ねぎ	・4月定植収穫中。 ・アザミウマ類が多発している。	<アザミウマ類防除> ・ハウス内外の除草に努め、飛び込みを防ぐ。 ・ローテーション防除に努める。 ・散布量を多めにし、十分薬剤が行き渡るようにする。

作物名	生育状況	技術対策
アスパラガス (ハウス立茎)	・夏芽収穫中。	・ハウス周辺の除草に努め、害虫の飛び込みを防ぐ。 ・アザミウマ類の発生に注意し、初発時の薬剤防除に努める。
かぼちゃ	・1番果収穫始。	・黒斑病、うどんこ病の防除を行う。

3 畑 作

○ばれいしょ

疫 病：罹病茎葉で作られた胞子が塊茎感染のもとになるため、収穫まで塊茎腐敗に効果のある薬剤で防除を徹底し塊茎腐敗の発生を防ぎましょう。

軟腐病：高温多湿で多発しやすくなります。防除の徹底を心がけてください。

○小 豆 生育は全道的に平年よりやや早く進んでいます。菌核病・灰色かび病は開花後に発生しやすくなり、開花始7～10日後が1回目の防除の目安になります。ほ場をよく観察しましょう。

病虫害名	防除時期
灰色かび病・菌核病	1回目：開花始7～10日後 2回目：1回目防除から7～10日後
アズキノメイガ	8月上旬～中旬

○大 豆 生育は全道的に平年よりやや早く進んでいます。マメシンクイガの防除開始は遅れないように実施しましょう。

1回目：若莢がついた頃（8月2～5日頃）ほ場を良く確認！
2回目：1回目の散布から7～10日後

※連作畑や前年発生が多いほ場では要注意！

○小麦後作緑肥の導入

小麦収穫跡地の緑肥作物は、地力維持・土壌病害の発生軽減・土壌浸食防止など効果があります。生育確保のためできるだけ早くは種しましょう。

4. 飼料作物生育状況（8月1日現在 普及センター調査ほ）

作物名	生育状況				生育期節	適 要
	項目	R6年	平年	平年との遅速日数	絹糸抽出期 (平年値)	
牧草(2番)	草丈(cm)	52.9	53.4	±0	7/26 (+5)	生育は平年並。
飼料用とうもろこし	草丈(cm) 葉数(葉)	312.1cm 18.9葉	286.2cm 17.3葉	+5		生育は平年より早くすすんでいる

●牛の暑熱対策：昨年同様、高温で推移しているため、暑熱対策を心がけましょう。

- ①扇風機の角度や強度を調節し、直接牛体に風を当てましょう。
- ②窓の開放（取り外し）などにより十分な送風を確保しましょう。
- ③飼料の多回数給与により飲水意欲を高め、新鮮な水を十分飲めるようにしましょう。
- ④カリウムやナトリウム、マグネシウムなどのミネラルを補給しましょう。